

全3フロアのうち2Fは「陸」がテーマ。「大木を何の素材で作るか、紆余曲折しました。大学院生や児童のアイデア実現と安全面、コストのバランスを取るのが難しかったですね」(込田建築設計事務所 玉本直人さん)。



学校トイレ事例
02
[改修]



滋賀県近江八幡市
近江八幡市立馬淵小学校

参加型ワークショップで実現した
児童にとって本当に必要なトイレ

児童や大学院生の意見は
できる限り反映する

「地域によって子どもが必要とするトイレは違う。子どもたちにとって本当に必要なトイレを作るには、その学校に通う子どもたちの声を聞かなければならないと考えています」

と語るのは、近江八幡市教育委員会の吉田圭一さんです。そう思った思いから、近江八幡市では、2011年から小中学校のトイレ改修の際には児童や生徒が参加するワークショップ(以下WS)を開催してきました。

中学校のトイレ改修では、市と生徒、教員でWSを実施。小学校では、加えて大阪市立大学で建築を学ぶ大学院生も参加します。「児童の年齢により近い学生の方が、一緒にやっている気持ちが生まれやすい」と考え、毎回依頼しているのです。

小学校のWSでは、大学院生が児童たちの考えを聞いて、内容を咀嚼し、実現できるようにアイデア化。それを、大学院生、設計士、市職員との三者で協議

して、設計コンセプトのベースとしています。

「児童や学生のアイデアはできる限り実施する方向で知恵を絞って形にしています」(同市都市整備部 永岡善明さん)

キャラ作りで、トイレに関心を持たせる

馬淵小学校のトイレ改修に際しては、2017年11月から2018年6月までの間に、計5回にわたる全児童参加のWSを開催しました。児童たちでできるだけトイレに興味を持ってもらいたいと、WSをリードする大学院生が「マブオン」という馬淵小の名前をもとにしたオリジナルキャラクターを演じました。児童たちは、マブオンがやってくるWSの日を楽しみにするようになりました。

WSでは、まず、ゲームで世界のトイレを紹介。児童にトイレへの関心を深めてもらいました。次に、イメージするトイレの絵を考えてもらい、大学院生たちがその絵を元に3フロアにある



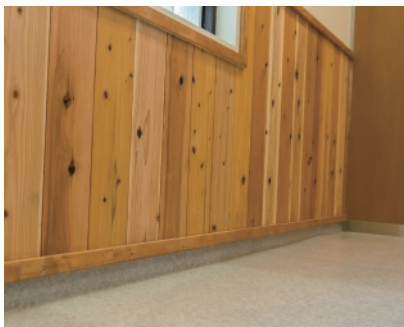
「トイレのお掃除は大好き」と児童の皆さん。



2F女子トイレ。3～4年生が天井の葉っぱの形を考え、大学院生が着色した。中心の柱部分は鉄骨、天井近くの枝は本物の材木できている。



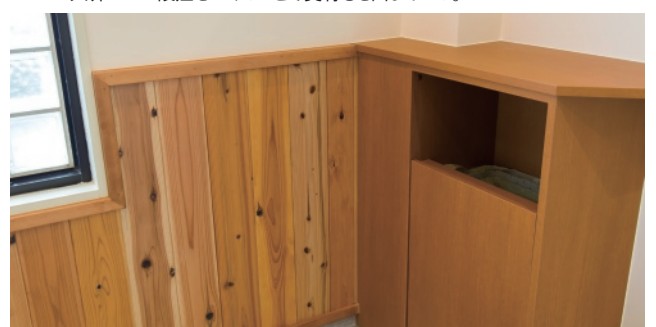
2Fトイレの入り口。ドアは設けずにゆるやかに廊下とつながっている。天井にRの段差をつけることで奥行きを出している。



超防汚性ビニル床シートを採用。壁付近は、床材を立ち上げてほこりがたまらないよう配慮。



整理整頓が行き届いた掃除用具入れ。



プラスチック製のゴミ箱が空間デザインを損なわないよう、ゴミ箱用の棚を制作。

それぞれのトイレについて「水辺」「陸」「空」とテーマを決めていきました。

最終回では、トイレの意匠となるタイルや葉っぱを制作する施工を体験。児童たちは、「自分が作った」という経験を持つことで、トイレへの愛着を深めていきました。

こうして出来上がったトイレに子どもたちは大喜び。

「かつての湿式床の暗いトイレでは、1日にせいぜい1回しかトイレに行かなかった子が『今日は3回入ったよ』とお母さんに報告しているケースも出てきています」(同校上川力教頭 取材時)

WSで清掃方法も伝え子どもが清掃好きに

馬淵小学校のトイレ改修のWSでは、コンセプトを作り上げるだけではなく、乾式床のトイレの清掃方法も伝えました。

これまで市では、改修に当たってできるだけ汚れがつきにくく清掃しやすい床材や壁材を選んできました。同時に、湿式床から乾式床に変わること、清掃方法もしっかり伝えてきました。

「でも、改修後の学校に行ってみると、きれいに保たれていない



1F男子トイレ。1Fのトイレは「水辺」をイメージ。青い天井や、緑と青のタイルの壁ですっきりとした色の空間。



1F昇降口前のトイレ。入り口はガラスブロックで光を取り入れ、内部の人影も見える。



1F男子トイレの入り口付近。棚があり、ちょっとした荷物が置ける。



1F女子トイレ。児童が使うトイレの大便器はすべて洋式便器で温水洗浄便座を設置。



正しい乾式床清掃の方法をWSで体験。



写真左より、玉本直人さん(込山建築設計事務所)、永岡善明さん(近江八幡市都市整備部建築課)、吉田圭二さん(近江八幡市教育委員会事務局教育総務課教育施設管理グループ)、上川力さん(近江八幡市立馬淵小学校教頭 取材時)。

ことが少なくない。清掃方法の伝達不足があるのではないかと考えました」(吉田さん)

トイレの清掃方法のWSでは、清掃の大切さや、それまでの湿式床のトイレとの清掃方法の違いを説明したり、実際にトイレに使う床材を取り寄せて、清掃体験も行いました。

湿式床だったときには敬遠されていたトイレ清掃ですが、清掃方法をWSを通じて身に付けた児童たちは、改修後には、「トイレ清掃が好きになり、「トイレ掃除がやりたい!」と言ってくる子もいるそうです。

「トイレをきれいに維持することで、この先何年も『トイレをきれいにしよう』という思いが伝わり続けたいですね」(吉田さん)



洗面台の水栓金具は、衛生上の観点からすべて非接触の自動水栓に。



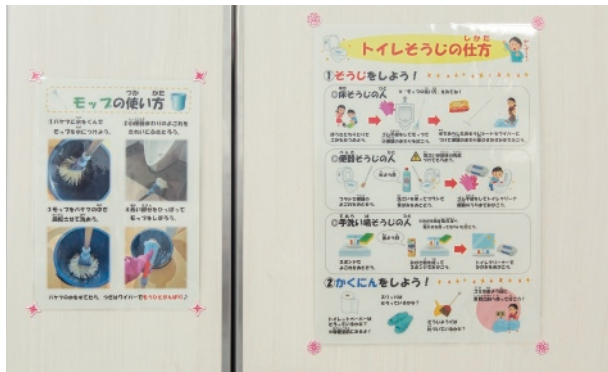
3F男子トイレ。「空」をイメージした空間で、照明によって雲が浮いているように見える。小便器下の汚垂れ石は、児童が一步前に出るように奥行きを短めに設定している。



3Fトイレの入り口。手前の壁は「雨粒」をイメージ。トイレと廊下を隔てる壁の上部が開いているため、廊下側にも光が取り込まれている。



壁は「風」をイメージして配色。ブース内のモザイクタイルは、児童たちがそれぞれの「虹」をイメージして制作。



教員手作りの「トイレそうじの仕方」のポスター。きれいに保つよう各学年の教員に加えて、教頭先生も毎日トイレを見回っている。

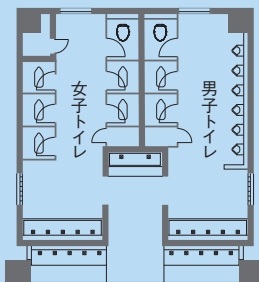
馬淵小学校 DATA

- 名称：近江八幡市立馬淵小学校
- 所在地：滋賀県近江八幡市馬淵町1533
- 児童数：159名(2019年4月)
- 施主：近江八幡市
- 設計・監理：込山建築設計事務所
- 施工：宮下建築
- 竣工年月：2018年9月

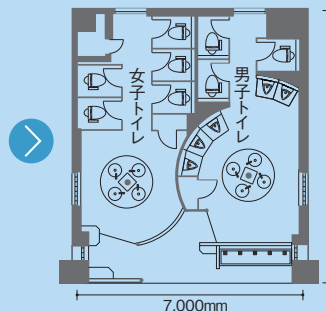


2F男女トイレ

改修前



改修後



大学院にはこれまでのWSで蓄積されたデータがあり、子どもたちに最低限必要なブースの広さについても把握している。洋式化後のブース数はそれぞれ一つ減らすだけで済んだ。